			門字校	埋字療法字	<u>料 2025年度</u>			
		科目名		目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数
機能障害学			車	門基礎	Ⅱ部3年	講義	30	1
		当教員			実務経験			
		木村 大	回復期病院		病院で3年間従事。併行 	テレて訪問看記	隻ステーションで	€5年間従事。
				講義机				
		・ション医療の目的に	はADL能力	」向上であるが、	そのADL能力低下	の原因であ	る機能障害に	こついて理
解する	<u> </u>			=#+ **	7 I -			
			7×4~	講義目				
Γ άπ.	機能障害の病態・発生のメカニズムや廃用症候群を理解する -般目標】機能障害の回復過程を理解する							
【 一		機能障害の凹復返 リハビリテーション(
		各項目の機能障害			 Pできる			
「行動	日輝】	現在の機能障害に				マできる		
	□1示』	廃用症候群につい			. ノノハ と 肌・切	((()		
回数		光川並込作でラグ			 業内容			
9				関節 	可動域①			
10				関節	可動域②			
11				急性症	甬・ 慢性痛			
12				筋ナ	」低下①			
13	筋力低下②							
14								
15								
		指定教科	書			参考図	書	
機能障	害科学	学入門			標準理学療法学・作	業療法学 解	幹	
					標準理学療法学・作	業療法学 内	7科学	
					標準理学療法学・作			
		評定方	法			準備物•注	意事項	
期末詞	は験100	%			なし			

		门子仪 连子猿边			神我安识	** IT *F	
	科目名 療法セミナーⅢ	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	<u>単位数</u> 2	
	世当教員	専門科目	Ⅱ 部3年(通年) 宝務	演習 経験	00	2	
	<u> </u>	一般・療養病棟にて、	5 151		患者などの治	磨に5年間従事	
171	22.1		義概要		7B, H 0. C 37, H	37.1 = 0 1 1 1 2 1	
臨床においっ	て理学療法士に必要	長な基本的検査技術と対	対象者への配慮につ	ついて、演習	を通じて習得す	する。	
		***	義目標				
7 60.□ 4 = 1		目の意義・目的を理解					
【一般日標】	般目標】基本的検査測定項目実施時の注意点やリスクを理解する。 基本的検査測定項目実施時の対象者への配慮や正確性に関わる点を理解する。						
		目の目的や方法、注意					
【行動目標】		行いつつ、基本的検査					
	基本的検査測定項	目実施時に、対象者へ		現性を考慮	できる。		
回数			授業内容				
16		標準予防	策、バイタルチェッ 	ク			
17		Π :	/態測定(肢長)				
18		Π :	/態測定(肢長)				
19	関節可動域測定①						
20	関節可動域測定②						
21	関節可動域測定③						
22	徒手筋力検査法①						
23		徒	手筋力検査法②				
24		徒	手筋力検査法③				
25		実技試験(形態測定、ROM-t、M	MMT)			
26		総合臨床実習に	むけた「統合と解釈	引の理解			
27		症例検討	①(基礎Ⅱ症例まと	め)			
28		症例検討②(ク	「ループディスカッ	ション)			
29		症例:	検討③(発表準備)				
30		症例	検討④(発表会)				
,	指定教科書			参考図書	‡		
PT・OTビジュフ	アルテキスト リハビリテ	ーション基礎評価学 病気が	がみえる vol.7 脳・神紀	圣			
	評定方法			準備物·注意	事項		
実技試験 100		実技の	の服装は【講義に関す	る注意事項】	に準じる		
前期 50%+後	後期 50%=通年 100%		聴診器、メジャー、ゴニオメーター、打腱器などの検査器具				
			東習・試験時は、安全			うこと	
		補助	效員:小財、飯、田中、	大野、宮原、	木村、辻		

	科目名 科目区分 対象学年 講義形式 授業時数 単位数							
	理学療法評価学Ⅳ	専門科目	Ⅱ 部3年	演習	30	1		
	担当教員		実務経験 ・病院、整形外科クリニックにおいて理学療法を7年間従事					
	宮崎 眞男	四復期リハヒリナーション: 講義		<u>ーツクにおい</u>	(理字療法を	と/年间促事		
\ 	参勢・基本動作・歩行の観察・記録・分析手法の基本を身につける。							
会 勢・	基本動作・歩行の観祭・語	記録・分析手法の基本を身 	んだったる。 					
	講義目標							
【一般	'日禪 ll	象を正確に捉えることがで 公析し 横做や書き取りも						
	姿勢・動作を観察・分析し、模倣や書き取りができる。 姿勢・動作の全体像・異常パターンを正確に捉え、記述・説明できる。							
【行動	「動目標】姿勢・動作の異常パターンから、問題点を列挙・説明できる。							
	姿勢・動作の異常ん	パターンから、原因を列挙						
回数		授	業内容					
1		総論、姿勢	観察・分析、立位					
2		步行①歩行周期	・正常歩行・異常歩	行				
3		歩行②歩行周期	・正常歩行・異常歩	行				
4		歩行 (③症例提示					
5		歩行 (4症例提示					
6	步行⑤症例提示							
7	歩行⑥症例提示							
8		講義内試験①(総論、姿	勢観察・分析、立信	立、歩行)				
9		立ち	上がり①					
10		立ち上が	り②症例提示					
11		階	没昇降①					
12		階段昇腳	备②症例提示					
13		寝返り・	起き上がり①					
14		寝返り・起き	上がり②症例提示					
15	講	義内試験②(立ち上がり、	階段昇降、寝返り	・起き上がり)			
	指定教科	丰		参考図	書			
臨床実	ミ践 動きのとらえかた		症例動作分析	_				
			観察による歩行分析 日常生活活動の分析		学的アプローチ	_		
			身体運動学 関節 <i>0</i>					
	評定方	法		準備物•注				
	講義内試験60%+講義内課		なし					
講義内	引試験①30%+②30%=60%	b						

8 Ŧ·I

	関西医科専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領							
	科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数		
	義肢装具学	専門科目	Ⅱ部3年(通年)		60	2		
	担当教員		実務経験	英				
	石川 佑之輔 高橋 眞太朗	回復期リハビリテーション病院と 回復期・生活期の運動器・中枢 ²				年間従事		
		講義構						
	や機能障害を呈した患者1 、装具を使用した際の生体	こ対する義肢、装具の基礎 なへの影響を学習する。	的知識を学習する	0				
	講義目標							
r toπ		、断端管理の方法と、切断		名称を知る。				
【一般 		的構造と、生体に与える影 テ─ション、装具療法が理解						
	切断の原因、手術	、断端管理の方法と、切断	部位ごとの義肢の	名称を説明	および列挙で	きる。		
【行動	- · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	的構造と、生体に与える影		-		700 - L 7		
回数		な義肢、装具を選択し、その	の後のリハヒリテー 業内容	・ションでのデ	古用万法が訪	けできる。		
16		上肢均 ————————————————————————————————————	別断と義手 					
17		—————————————————————————————————————	具総論 ——————					
18	下肢装具総論①(部品と機能)							
19	下肢装具総論②(部品と機能)							
20	短下肢装具(種類と適応)							
21		短下肢装具(音	『品の種類と調整)					
22		長下肢装具	(種類と適応)					
23		長下肢装具(実際の使用方法)					
24		— 靴型装具	(種類と適応)					
25		体幹装具、	側弯症装具①					
26		体幹装具、	側弯症装具②					
27		疾患別装具の処方	(脳卒中片麻痺の装	具)				
28		疾患別 (整形外科疾患の装具、	装具の処方 小児疾患の装具、」	上肢装具)				
29		カックアップ・	スプリントの作成					
30		後期	のまとめ					
	指定教科			参考図	書			
15レク	チャーシリーズ理学療法テキ		義肢装具のチェック 義肢装具学(医学書					
	評定方	法		準備物·注	意事項			
期末記	 試験:前期50%+後期50%	,	 前期は装具学の教和		_ • • •			
			授業では講義を聞いて	、要点や解説を	随時配付資料に	書き込むこと。		

対象学年

講義形式 授業時数 単位数

科目区分

	村日石 村日区力 対象于中 講義形式 技术時数 早日			平世奴					
	運	動療法学	専門科目	Ⅱ部3年(通年)	演習	60	2		
	<u>‡</u>	旦当教員		実務経験					
	- ;	 木村 大	回復期病院にて1年、急性期	明病院で3年間従事。併行して訪問看護ステーションで5年間従事。					
			· 講義 [;]	既要					
理学组	里学療法の中核的な治療手段である運動療法について、その理論的背景を学び基本的な技術を習得する。								
			講義	 目標					
F 40	- 1-3	運動療法の方法と							
【一般	目標】	運動療法の基本的	り知識と基本的技術を習得	する。					
	運動療法の定義、基本事項を記述できる。								
	各運動療法の目的・種類・原則・方法を選択及び記述できる。								
【行動	目標】	筋の起始・停止・選	動方向を理解した上で目を	標としている筋のス	トレッチング	を実施できる	0		
		骨運動を理解した	上で、他動的に関節可動均	ば運動を実施できる	0				
		対象者が筋力を発	揮しやすい抵抗運動や自	動介助運動を実施	できる。				
回数				業内容					
16			筋力の配	收善:①目的					
17			筋力の改	善 ②基本原則					
18			筋力の改善	: ③メカニズム					
19			筋力の記	改善: ④ 方法					
20	前期の復習:関節包内運動、ストレッチング								
	 筋力増強運動の実際:①抵抗運動、自動介助運動								
21	・徒手抵抗運動方法(下肢) ・自動介助運動方法(下肢)								
22	筋力増強運動の実際:②抵抗運動、自動介助運動 ・徒手抵抗運動方法(下肢・上肢) ・自動介助運動方法(下肢・上肢)								
23				③抵抗運動、自動力 運動方法(上肢) 運動方法(上肢)	介助運動				
24			筋力増強運動の実際: ・上 ⁻	④抵抗運動、自動が 下肢まとめ	介助運動				
25			実技試験の	③筋力増強運動					
26		Ī.	関節可動域運動の実際:ス ・スタティック、2	トレッチング(上下 ダイナミックストレ					
27			・関節モビライゼーショ:	本手技 ン (すべり、傾斜、 マッサージ	引き離し)				
28			協調性、人	バランスの改善					
29			持久	力の改善					
30			筆	記試験					
		指定教和			参考図	書			
シンプ	ル理学	療法学シリーズ 運動	カ療法学テキスト	理学療法学ゴールト 理学療法学 障害別			·····································		
		評定方			準備物・注意				
【成績]前期5	0%+後期50%=10		実技の服装は【講義			3		
		験50%+講義内試験		配布資料を忘れずに			-		
				講義中は必ずメモを		-			
	月:実技試験50%+講義内試験50%=100% 講義中は必ずメモを取ること。								

	関西医科専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領							
	科目名	科目区分		対象学年	講義形式		単位数	
	運動器理学療法学 担当教員	専門科目	11 11 11 11 11 11 11	3年(通年)		120	4	
		,, ,, , , , , , , , , ,	実務経験					
	宮原 隆登 外来リハビリ・急性期病棟等で6年間従事。高校野球大会のメディカルサポート等も経験。 宮崎 眞男 急性期・回復期リハビリテーション病院、スポーツ整形外科クリニックに7年間従事。							
			講義概要					
運動	運動器疾患における病態や合併症、禁忌事項について学ぶ。運動器障害に対する理学療法評価・治療を学ぶ。							
	講義目標 運動器疾患の概要について理解する。運動器障害を引き起こす疾患、術式、術後スケジュール、禁忌事項を理解する。							
了— 級	連動品狭忠の概要にご 手標】運動器障害の患者に対							
L PJX	各疾患の特性を理解し				- D 71 180 07 19	工艺工作	A21X11 CC 0.	
	運動器障害を有する患		列挙できる。スポー	ツ障害・外傷の多	・	明できる。		
【行動	目標】 運動器障害を引き起こ				マ・列挙できる	0		
₩L	整形外科的検査を正確 I	能に実施し、意義を踏ま 一						
回数			授業内					
31		变形 ————	性関節症1:総証	⊶ 理学療法 評	⁷ 価 —————			
32		变形 ——————	:性関節症2:理学 	^丝 療法と運動連 —————	鎖			
33	変形性膝関節症1:理学療法評価							
34	変形性膝関節症2:保存療法・TKA							
35	変形性股関節症1:保存療法							
36	変形性股関節症2:THA							
37		下肢疾患	鼠(ノンコンタク	トスポーツを	例に)			
38		下肢疾患	릜(ノンコンタク	トスポーツを	例に)			
39		下肢疼	₹患(コンタクト	スポーツを例	(二)			
40		下肢疼	₹患(コンタクト	スポーツを例	(こ)			
41		下肢疾患に	二対する治療手技	例(メディカ	ルリハ)			
42		下肢疾患に	対する治療手技化	列(アスレチッ	ックリハ)			
43		下肢疾患	に対する治療手	支例(その他属	5用編)			
44		R	RA:概要・理学療	R法・ADL指導				
45			末梢神経損傷の	の理学療法				
	指定教科書	DD Det ets en W			参考図書			
Crossl	ink 理学療法学テキスト 運動							
			ここがポイント! 運動療法のため(•		
	 評定方法		<u> </u>		# 注意 请物・注意	事項		
筆記記	式験:前期+後期=70%		実技の服装は【講					
実技試	実技試験:前期+後期=20% 症例検討:前期+後期=10% 実技練習・試験時は、安全に行えるよう細心の注意を払うこと							

				療法学科 2025年度					
		科目名	科目区分		講義形式		単位数		
		器理学療法学 ⊒当教員	専門科目	Ⅱ 部3年(通年)	演習	120	4		
				実務経験					
		原隆登崎 眞男		朋病棟等で6年間従事。高校 ハビリテーション病院、スポ					
	講義概要								
運動	動器疾患における病態や合併症、禁忌事項について学ぶ。運動器障害に対する理学療法評価・治療を学ぶ。								
	講義目標 運動器疾患の概要について理解する。運動器障害を引き起こす疾患、術式、術後スケジュール、禁忌事項を理解する。								
了— 织	_			₹を引き起こす疾患、何式、何は の項目を理解する。スポーツ障					
<i>צ</i> ויו א			た上で、整形外科的検査の	=	ロ アドラック 10.	ITE FIND I WIN	421X11 CC 00		
		運動器障害を有する患	者の理学療法評価を列挙で	できる。スポーツ障害・外傷の発	き生機序を説し	明できる。			
【行動				よや物理療法、装具療法を選択 ・・-	・列挙できる	0			
口米		整形外科的検査を正確	Eに実施し、意義を踏まえた 	結果の説明ができる。 授業内容					
回数				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
46				脊椎疾患1:総論 					
47			脊 	t疾患2:理学療法評価 					
48			脊椎疾病	患3:理学療法(保存・術後	:)				
49		熱傷・運動器の生活習慣病:肩こり・腰痛							
50				整形外科的検査					
51				整形外科的検査					
52				整形外科的検査					
53			整形	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /					
54			スポー	ツ現場でのトレーニング例	Ŋ				
55				症例検討①					
56				症例検討②					
57				症例検討③					
58				症例検討④					
59				症例検討⑤					
60				症例発表					
		指定教科書			参考図書				
Crossl	ink 理学	塩療法学テキスト 運動		と全身からアプローチする					
				バポイント! 整形外科疾患 療法のための機能解剖学的		•			
		評定方法	選判		^{孙熙彭技術} 備物•注意§	事項			
筆記記	式験:前	期+後期=70%	実技						
				練習・試験時は、安全に行え			ع.		

科目名 科目区分 対象学年 講義形式 授業時報 神経理学療法学 専門科目 II 部3年(通年) 講義 120 担当教員 実務経験 石川 佑之輔	4 年中心に5年従事
担当教員 実務経験 石川 佑之輔 回復期リハビリテーション病院と有料老人ホームにて中枢神経系理学療法	・中心に5年従事
石川 佑之輔 回復期リハビリテーション病院と有料老人ホームにて中枢神経系理学療法 鍬田 幸輔 の復期リハビリテーション病院において中枢神経系理学療 講義概要	
·····································	
神経疾患の代表的な評価と治療アプローチを理解できる。	
【一般目標】神経疾患の病態、症状を踏まえて、適切な評価項目を知る。	
神経疾患を持った患者の情報、評価結果から、必要な治療プログラムを知る。	
神経疾患を提示された際に、行うべき代表的な評価項目と治療アプローチを選択、列挙できる。	
【行動目標】神経疾患によって出現している症状に対し、適切な評価を正確に実施できる。	□ 一 + フ
一大学院・「神経疾患を持った患者の情報、評価結果から、必要な治療プログラムを選択し、その根拠が説」 「回数」 ・ 授業内容	月できる。
31 Parkinson病の理学療法(総論1)	
32 Parkinson病の理学療法(総論2)	
33 運動失調に対する理学療法(総論)	
34 運動失調に対する理学療法 (評価実践)	
35 失調評価練習	
36 脳卒中総合評価スケール (SIAS)	
38 頭部外傷、筋萎縮性側索硬化症の理学療法	
39 多発性硬化症、ギラン-バレー症候群、重症筋無力症の理学療法	
40 Parkinson病、脊髄小脳変性症の復習	
41 Parkinson病の症例検討①	
42 Parkinson病の症例検討②	
43 Parkinson病の症例検討③	
44 Parkinson病の症例検討④	
45 Parkinson病の症例検討⑤	
5レクチャシリーズ 神経障害理学療法学 I	
5レクチャシリーズ 神経障害理学療法学 Ⅱ 標準理学療法学 神経理学療法学	
定期試験:前期37.5%+後期45%=82.5% 実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる	
実技試験:前期7.5%	
定例検討課題: 前期+後期=10% 	

					J 17 2020 T		A1 HL1 42		
	11.2	科目名	科目区分			講義形式		単位数	
		理学療法学	専門科目		Ⅱ部3年(通年)	講義	120	4	
		但当教員 四 <i>生</i> 之 赫	同作 #!!	実務経験					
		川 佑之輔 k田 幸輔		「リテーション病院と有料老人ホームにて中枢神経系理学療法を中心に5年従事設・回復期リハビリテーション病院において中枢神経系理学療法を中心に12年従事					
				講					
神経	疾患に	対する評価方法と、	治療アプローチる	を学習す	- -る。				
					- · 義目標				
		神経疾患の代表的な	 :評価と治療アプロ-						
【一般	目標】	神経疾患の病態、症							
		神経疾患を持った患							
了⁄字形	日梅1	神経疾患を提示される神経疾患によって出る					髦択、列挙	できる。	
L 1J 3 √		神経疾患を持った患					、その根	拠が説明できる。	
回数					授業内容				
46			垣	定例発表	(Aパターン発表)				
47			组	主例発表	(Bパターン発表)				
48			脊髄損傷	の理学療	§法(概要、最終 發	隻得ADL)			
49			脊髄損化	傷の理学	·療法(脊髄損傷の)評価)			
50			(ポジショ			ぶり、座位	:)		
51			(車椅 -		員傷の理学療法 プッシュアップ、	移乗)			
52	脊髄損傷の理学療法 (車椅子駆動、プッシュアップ、移乗)								
53					員傷の理学療法 作、立位、歩行)				
54			~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	₹髄損傷¢	の理学療法のまと	め			
55				脳梗	塞の症例検討①				
56				脳梗剝	塞の症例検討②				
57				脳梗	塞の症例検討③				
58				脳梗	塞の症例検討④				
59				脳梗剝	塞の症例検討⑤				
60					症例発表				
151 4	, 	指定教科書	5. 赤江岸 7	DT OT	1 明 ノニコレベハル	参考			
		リーズ 神経障害理学 リーズ 神経障害理学			入門 イラストで分か 学療法学 神経理学		•		
, ,	, , ,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,							
		評定方法				準備物・注	主音 重佰		
定期記	 式験 : 前	<u> </u>	=82.5%	実技の服					
		ī期7.5%			work top - Top 7		, ,		
症例	例検討課題:前期+後期=10%								
				l					

为口色中女门子人 在于原丛子中 2020年及 成初 解我女员							
科目名	科目区分 対象学年 講義形式 授業時数 単位数						
内部理学療法学	専門科目	Ⅱ部3年(通年)	講義	120	4		
担当教員	実務経験						
山根 好史	療養病床、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどで地域理学療法を中心に 10年従事。併行して整形外科外来で定期的に25年従事。						
柳本 展孝	柳本 展孝 一般・療養病棟にて、大腿骨頸部骨折、脳卒中、透析患者などの治療に5年間従事						
	講義	概要					

運動障害において重要な心肺機能の障害や種々の疾患の起因となる糖尿病を中心に内部障害の特徴を学習し、その理 学療法についての理解を深める。

講義目標

内部障害といわれる循環器機能障害、呼吸機能障害、代謝機能障害などの起因疾患について理解する。

疾患それぞれに起因する運動機能障害や回復過程、予後等に関する知識を整理する。 【一般目標】

それぞれの疾患に対して、リスク管理や運動療法、日常生活指導などの理学療法における理論と技術を習得する。

障害の改善だけでなく予防の観点からも疾患の理解を深める。

心肺機能の機能と構造を理解し、説明できる。

循環器機能障害の病態と障害構造、理学療法アプローチについて理解し、説明できる。

【行動目標】代謝機能障害(糖尿病)の病態と障害構造、種々の合併症、理学療法アプローチについて理解し、説明できる。

基本的な心電図を判読し、症状と照らし合わせることができる。

基本的ながんリハビリテーションについて理解し、説明できる。 運動負荷試験と身体の応答について理解し、説明できる。

	症例検討を行い、内部障害患者へのかかわ	り方を説明できる。				
回数		授業内容				
31	循環器リハビリ	前期試験振り返り テーション総論 ①循環器総論 ②血圧				
32	バイタル	サイン、フィジカルアセスメント				
33	心肺運動	負荷試験 基礎理論、数値の解釈				
34		T環器の理解(解剖・生理) 大血管系の解剖 ②刺激伝導				
35	心	肺運動負荷試験 問題演習				
36	循環器の理	解(解剖・生理) ③循環器の調節				
37	心肺運動負征	荷試験 RUMP負荷によるCPX実技演習				
38	心肺運動負荷試験 運動負荷プログラム実技演習					
39	循環器病理と理学療法 ①慢性心不全等					
40	糖尿病の理学療法 ①糖尿病の病態 ②糖尿病の理学療法評価					
41	循環器病理と	= 理学療法 ②虚血性心疾患(病態)				
42	糖尿病の	理学療法 ③糖尿病の理学療法				
43	循環器病理と理	里学療法 ③虚血性心疾患(理学療法)				
44	腎機能	障害と理学療法 ①慢性腎臓病				
45	循環器病理と理	里学療法 ③虚血性心疾患(理学療法)				
	 指定教科書	参考図書				
内部障	章害理学療法学テキスト	15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト内部障害理学療法学 循環代謝				
		内部障害のリハビリテーション				
	== -t11.	理学療法ハンドブック 第3巻 など				
⇔ #==	評定方法	準備物・注意事項				
	式験 前期40%+後期40%=80%	実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる				
	スト 前期5%+後期5%=10%	症例検討以外の演習時は、指定ジャージ着用				
提出物	勿(症例検討)前期5%+後期5%=10%	症例検討時にはノートPC持参を求める場合がある				

科目名	科目区分 対象学年 講義形式 授業時数 単位数						
内部理学療法学	専門科目 Ⅱ 部3年(通年) 講義 120 4						
担当教員	実務経験						
	療養病床、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどで地域理学療法を中心 に10年従事。併行して整形外科外来で定期的に25年従事。						
柳本 展孝	一般·療養病棟にて、大腿骨頸部骨折、脳卒中、透析患者などの治療に5年間従 事						
	matt 4	4. I					

講義概要

運動障害において重要な心肺機能の障害や種々の疾患の起因となる糖尿病を中心に内部障害の特徴を学習し、その 理学療法についての理解を深める。

講義目標

内部障害といわれる循環器機能障害、呼吸機能障害、代謝機能障害などの起因疾患について理解する。

疾患それぞれに起因する運動機能障害や回復過程、予後等に関する知識を整理する。

【一般目標】

それぞれの疾患に対して、リスク管理や運動療法、日常生活指導などの理学療法における理論と技術を習得する。障害の改善だけでなく予防の観点からも疾患の理解を深める。

心肺機能の機能と構造を理解し、説明できる。

循環器機能障害の病態と障害構造、理学療法アプローチについて理解し、説明できる。

基本的な心電図を判読し、症状と照らし合わせることができる。

【行動目標】代謝機能障害(糖尿病)の病態と障害構造、種々の合併症、理学療法アプローチについて理解し、説明できる。

基本的ながんリハビリテーションについて理解し、説明できる。

運動負荷試験と身体の応答について理解し、説明できる。

	症例検討を行い、内部障害患者へのかかわり方を説明できる。					
回数	授業内容					
46	腎機能障害と理学療法 ②人工透析					
47	心電図 ①心電図基礎					
48	末梢循環障害の病態と理学療法 ①慢性動脈疾患と理学療法					
49	心電図 ②心電図の波形と見方の基本					
50	末梢循環障害の病態と理学療法 ②深部静脈血栓症と理学療法 ③リンパ浮腫と理学療法					
51	心電図 ③心房性の不整脈					
52	心電図 ④心室性の不整脈、ブロックなど					
53	がんのリハビリテーション ①がんの疫学・病態					
54	がんのリハビリテーション ②がんのリハビリ					
55	症例検討					
56	症例検討					
57	症例検討					
58	症例検討					
59	症例検討					
60	症例発表					
	指定教科書 参考図書					
内部	章害理学療法学テキスト 15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト内部障害理学療法学 循環代謝					
	内部障害のリハビリテーション					
	理学療法ハンドブック 第3巻 など					
⇔ #==	評定方法 準備物・注意事項 ************************************					
	武験 前期40%+後期40%=80% 実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる (年間検討以内の溶習味は、指令が、 ご芝田					
	た 前期5%+後期5%=10% 症例検討以外の演習時は、指定ジャージ着用 (原)(検討)は、 よりのは またずり 2個 へがまる					
捷 山等	が(症例検討)前期5%+後期5%=10% 症例検討時にはノートPC持参を求める場合がある					

		門学校 理学療法学						
	科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数		
	理学療法治療学	専門科目	Ⅱ 部3年(通年)	講義	60	2		
	担当教員 内原_由佳子		実務経験 実務経験 病院・通所リハ・老健に計3年、整形外科クリニックにおいて10年間従事					
講義概要								
口告点	生汗汗動(ADL)の概念を	理解するとともに、ADL評価	あれる一番ではいます。	生木的知識.		+ Z		
	土/占/占期 (ADL) の概念を 			医个时知识:	技術を自行	୬ ର		
	講義目標							
『 向几	ADLの概念、ADL評価(FIM・BI)の目的と項目および方法を理解する							
【一般目標】移動補助具(車椅子・歩行補助具)の種類と構造および使用方法を理解する 各動作における介助方法を知る								
		三月月日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日		できる				
【行動	ɪ目標】移動補助具(車椅·	子・歩行補助具)の種類、構	・歩行補助具)の種類、構造、使用方法を列挙できる					
		·助方法を学生同士で実施 ⁻						
回数		授	業内容					
1		移動介即	力(松葉杖)					
2	THAOADL							
3	片麻痺のADL							
4	ウィメンズヘルス①							
5	ウィメンズヘルス②							
6	ウィメンズヘルス③							
7	ウィメンズヘルス④							
8	筆記試験①/前庭性めまいについて							
9	リスク管理/動作介助(寝返り)							
10			(起き上がり)					
11	動作介助(立ち上がり/立位)							
12	動作介助(移乗)							
13	動作介助(歩行)							
14	患者・対象者教育							
15	第記試験②/まとめ							
	指定教和	抖書		参考図				
なし			シンプル理学療法学	-				
	リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイド・ ウィメンズ ヘルス リハビリテーション					Wルイトフイン		
	評定方法 準備物・注意事項							
成績:前期50%+後期50%=100% 実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる						3		
後期:	筆記試験2回(①35%+②159	%)						

	科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数		
t	也域理学療法学演習	専門科目	Ⅱ 部3年(通年)	演習	60	2		
	担当教員		実務経験					
	大野 京介	急性期病院におい	て整形・中枢神経系理学療法中心に6年間従事。					
	講義概要							
		関わり方やチームアプロー 域を中心とした居宅サート			を学習する。			
-1,	理学療法士として、介護保険領域を中心とした居宅サービスや施設サービスの取り組みを学習する。 講義目標							
	在宅復帰に向けておよび在宅での理学療法や関りを理解する。							
【一般目標】基本的動作の介助方法および指導方法を理解する。								
	演習(グループワークや個人課題)を通して、地域における理学療法業務を理解する。 在宅復帰に向けておよび在宅での理学療法や関りを検討・提案し、発表ができる。							
【行動	【行動目標】基本的動作の介助方法および指導方法の発表ができる。							
— ster	グループワーク(症	例への居宅サービスや施)したことをき	発表できる。			
回数			業内容 ハ・老健の症例検討	'+ 1				
1			察、動作観察>	טיי.				
2			ハ・老健の症例検記 項目列挙>	村②				
3			ハ・老健の症例検記 釈、動作分析>	村③				
4	通所リハ・訪問リハ・老健の症例検討④ <治療プログラム立案>							
5	通所リハ・訪問リハ・老健の症例検討⑤ <評価サマリー作成>							
6	基本的動作の介助指導 <資料作成>							
7	基本的動作の介助指導 <発表>							
8			サービスについて てくグループワーク	>				
9	学校保健について <グループ発表>							
10	看護連携用資料作成							
11		看護連携用	資料作成・発表					
12	看護連携前発表演習①							
13	看護連携前発表演習②							
14	看護連携①							
15	看護連携②							
	指定教科	書		参考図	書			
なし			なし					
提出物	勿80%+発表20%		実技の服装は【講義	に関する注意	事項】に準じる	5		

		関四医科导	1門字校 埋字療	法字	科 2025年度	後期 講	義安領		
科目名			科目区分		対象学年	講義形式	授業時数	単位数	
基礎臨床実習Ⅱ			臨床実習		Ⅱ 部3年	実習	180	4	
	講義概要								
	臨床実習指導者の下で多くの臨床を体験する。特に理学療法評価(検査技術)を中心に経験を重ね、対象者と多くの関わり								
を持つ中で	を持つ中で医療人としての社会的スキルも身につけていく。								
講義目標									
F +0 -0 1=3	医療機関における理学療法士の役割について理解する。								
【一般目標】		療に従事するものとしてのソーシャルスキルを身につける。							
		学療法の対象者に対して情報収集および検査測定と結果の解釈を行う。							
			は情報を収集し整理す		5 t 7				
【红彩口描】			全測定項目を列挙し 免者に対しての会に		·				
【1丁期日保】 	1	本的な検査測定を対象者に対して安全に実施できる。							
歩行を含めた基本動作の動作観察ができる。									
	検査測定結果を項目ごとに解釈する。 時期								
				112					
実習前も					実習前オリエンテーション 実習資料配布、実習配置発表、身だしなみチェックなど				
学内実			Ⅰ~10月3日	実習前OSCE、身だしなみチェックほか					
実習前OS	SCE	全て9:00	~16:00予定	実習	実習目標作成、実技練習、実習前学習含む				
 臨床実 [:]	<u> </u>	10865	I~11月1日	。 臨床実習180時間					
四小人	П	107,01	ГУПЛТЦ						
実習後も	; =	11月4日(火) 1-2講時	実習課題提出、実習後面談など					
大日区(<u>- </u>	(702)						
補充実習	期間	2026年		実習時間数不足または不合格の場合のみ対象となる			<u></u>		
一									
	指定教科書				参考図書				
2025年度臨	2025年度臨床実習指導要項(学生用) ※別途配布				**				
中羽に胆ん	評定方法 実習に関わるゼミの状況、関連書類の提出状況、実習先での				準備物・注意事項 携行物:実習ファイル(基礎実習 I で使用したもの)				
	英首に関わるとこの状況、関連音類の提出状況、英首兄との「張行物・英首ファイル(基礎英首子と使用したもの) 臨床技能の経験値と指導者による評価などを、全て加味して総 筆記用具、印鑑(シャチハタで可)						ガレ/ごもの)		
##が込むではずんにくはずらにのでも「脚でして、エマルグして心」 キルガス・け廻(ノブノバノ C ロノ									

実習前後のゼミ、臨床実習には必ず2025年度臨床実習指

身だしなみ不備、忘れ物、態度不良、遅刻・欠席等は全て当該科目からの減点対象事項となる。また身だしなみ不良に対する修正の意思がない場合、ゼミの参加態度不良などに対しては、実習ゼミ等の段階で実習を中断・中止する場合

実習中止の場合は、修了時間数を問わず単位取得不可と

導要項と実習ファイルを携行すること。

がある。

なる。

合的に評定する。

る。

学生自身の責任で正規期間内に必要時間数を満たせない場

合は、補充実習対象あるいは評定対象外となる可能性があ